

# 1年1組 道徳科学習指導案

1. 主題 あいてに しんせつに B（親切、思いやり） （1時間完了+随時）  
資料名「はしの うえの おおかみ」 出典「どうとく1」 光村図書

## 2. 構想

本学級は、明るく素直で、困っている子がいたら優しく声をかけ、手を差し伸べることのできる児童が多い。けんかになることも少なく、穏やかな児童が多い反面、発言力のある一部の児童の言いなりになってしまうことがある。また、自分が一番になりたいという気持ちから、横入りをしたり、嫌なことは人任せにしたりと自己中心的な行動をとってしまう児童もいる。自己中心的な行動をしている児童には、その都度声をかけ、周りの気持ちに気付かせると素直に自分の行動を改めることができる。発達段階においてこの時期の児童は、素直な反面、相手の立場に立って考えることが難しいと考えられる。そこで、相手意識をもって人と接する態度を育み、良好な人間関係を築く力をつけさせたい。

本教材「はしのうえのおおかみ」は、主人公のおおかみがうさぎやきつねなど自分より弱い立場の動物たちに意地悪をして楽しんでいるところから始まる。そんなおおかみが、自分より大きくなると親切にされたことで心を入れ替え、他の動物たちに優しく接するようになり、親切にすることの大切さや気持ちよさに気付く話である。おおかみやうさぎ、くまといった登場人物の気持ちを想像することで、自分勝手な行動をすると周りは嫌な思いをしているということに気付くことができる。そして、おおかみの気持ちの変容について話し合う中で、親切な行動のよさや大切さに気付くことができるであろう。

そこで、本時では児童がおおかみの気持ちの変容に気付くことができるよう、次の手立てを考えた。まず、話の内容を理解しやすいように、場面絵を用い、本資料を紙芝居形式で朗読する。気持ちを言葉で表すことが難しい児童のために、ハートカードを準備する。赤色はいい気持ち、青色は嫌な気持ちを表し、登場人物の気持ちを確認するのに役立つ。おおかみが心を入れ替えるきっかけとなる場面では、おおかみの様々な気持ちに気付くことができるよう役割演技を取り入れる。中心発問『うさぎを渡してあげた後、「えへん、へん。」と言っているおおかみは、どんな気持ちだったでしょう。』では、グループでおおかみとうさぎのやり取りを話し合わせることで、おおかみもうさぎもいい気持ちになっていることに気付く手助けとなるのではと考えている。

1学期の道徳で「きんのおの」を取り上げた際、「なぜうそをついてはいけないのか。」という問いに対し、「怒られるから。」と答える児童がとて多かった。正しい行いは先生や親に怒られないためにするのではなく、周りや自分自身をよい気持ちにするために行うのだということにつなげていく必要がある。「はしのうえのおおかみ」では、親切にすることで自分自身も温かい気持ちになることを押さえ、誰に対しても親切に振舞おうとする意欲や態度を育てていきたい。

## 3. 計画

時間	学習内容	時間
1	『学び合い』 ・みんなで算数や国語の課題解決に取り組むことで、教え合うこと、助け合うことのよさを知る。友達の優しさに触れる。	随時
2	「にじいろのさかな」の読み聞かせ ・にじいろのさかなの行動を追っていくことで、相手に優しくすると、自分もうれしい気持ちになることに触れる。	朝の読書タイム
3	あいてに しんせつに B（親切、思いやり） 資料名「はしの うえの おおかみ」 ・親切にすることのよさについて考え、相手のことを思いやり、優しく接しようとする気持ちを高める。	1（本時）
4	きらきらタイム ・友達に親切にしてもらったことを発表し、親切な行動ができた児童を称賛する。	帰りの会

#### 4. 本時の学習指導

##### (1) ねらい

- ・おおかみの気持ちの変化を考えていくことを通して、相手に親切にすることのよさについて考え、相手のことを思いやり、優しく接しようとする気持ちを高めることができる。

##### (2) 準備

児童：ハートカード

教師：紙芝居、ワークシート、登場人物のお面

##### (3) 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (3)	1 親切にされたときのことを振り返る。 ・給食をこぼしてしまったときに、友達が片づけを手伝ってくれてうれしかった。 ・『学び合い』で友達が分からないところを教えてくれた。優しいなと思った。	・親切にされた経験を振り返らせ、そのときのうれしさや気持ちよさも確認する。 ・【発問】「だれかに親切にするとどんな気持ちになるかな。」
課題 (1)	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">だれかにしんせつにすると どんなきもちになるでしょう</div>	・本時の学習課題を掲示する。
展開 (35)	3 「はしのうえのおおかみ」を読んで、おおかみの気持ちの変化を考える。 (1) うさぎを追い返して「えへん、へん。」と言ったおおかみは、どんな気持ちか考える。 ・怖がっていておもしろいな。 ・俺は強いんだぞ。  (2) くまの後ろ姿をいつまでも見送っていたとき、おおかみはどんなことを思っていたか考える。 ・くまさん優しいな。ありがとう。 ・次は自分がうさぎさんたちに優しくしたい。 ・うさぎさんたちに、なんてひどいことをしたんだろう。 ・優しくされて、うれしいな。 (3) うさぎを渡してあげた後、「えへん、へん。」と言っているおおかみは、どんな気持ちか考える。 ・優しくできてよかったな。 ・ぼくもくまさんみたいに優しくなれた。 ・うさぎさんが喜んでくれてうれしいな。 ・これからも優しくしたいな。 (4) 2つの「えへん、へん。」は同じ気持ちか比べる。 ・はじめはいじわるないい気持ち。あとは優しくできてうれしくなったいい気持ち。	・児童の興味関心を促すため、紙芝居を使ってお話を読む。 ・いじわるを楽しんでいるおおかみの気持ちに気付くよう、場面絵を提示する。 ・おおかみとうさぎの気持ちを表現するために、ハートカードを用いる。(赤=いいきもち、青=いやなきもち) ・おおかみの気持ちを想像しやすくするために、児童がおおかみ役、教師がくま役となって役割演技を行う。 ・役割演技をした児童に気持ちを聞いたり、様子を見ていた児童のつぶやきを拾ったりして、おおかみの気持ちを取り上げる。  ・おおかみとうさぎの会話を考えさせるために、場面絵を各グループに配布する。 ・会話を考えることで、うれしそうなおおかみの気持ちを想像しやすくする。 ・おおかみの気持ちを考え、発表できた児童をほめる。  ・【発問】「どちらの『えへん、へん。』もいい気持ちで言っているが、本当に同じ気持ちなのかな。」 ・親切にすると自分もいい気持ちになることを押さえる。
整理 (6)	4 本時をふりかえり、おおかみにむけて手紙を書く。 ・優しくするといい気持ちになるね。ぼくは、勉強で困っている子がいたら、教えてあげたいな。	・みんなが気持ちよく過ごせるよう、これから自分が頑張りたいことをおおかみに伝えるよう促す。 ・親切にすると相手も自分もいい気持ちになることに気付いている児童や、自分にできる親切な行動を考えられている児童を意図的に指名する。

##### (4) 評価

場面絵や役割演技を取り入れたことで、おおかみの心情の変化に気づき、親切にすることのよさを感じたり、周りの人のために自分にできる親切を考えたりすることができたか。

(活動3の様子および記述、活動4の記述から)